

第2回点検研修会が開催された

8月1日（日）県ソ記録委員会主催の標記研修会が焼津支部小川公民館にて開催された。県下各支部から記録長など公式記録員40名が集まったこの研修会では、芦澤忠県ソ記録委員長自らが講師を務めた。最初に、記帳者による自己点検および点検担当者による点検から最終点検へ向けた一連の流れについての説明があり、このあと実際にPC入力された打順表や打撃・守備の記録から入力ミスを見つける作業などが行われた。また、大会結果報告書や記録4・5・6号から間違いを探すなど実際の大会で使われた資料をもとに学び、記帳が主と思われがちな記録員の作業の広さと奥深さに、唸る受講生も多く見られた。午後は、今年度の日本女子リーグ1部2部のスコアシートをもとに、集計作業や復活自責点の検索に取り組むなど、非常に中身の濃い研修会となった。昨年に引き続き今年で2回目を数えるこの点検研修会について、芦澤委員長は、「記録は永久に残る。一人でやらず、複数の人間で業務にあたろう。高い知識を持ち、かつ記録業務に関わる専門技術を活かすことができる競技役員であることを再認識して欲しい。」と参加者を鼓舞するとともに、記録業務の基本である公平・正確・迅速の質向上へと期待を込めた。



開講にあたり焼津支部・鈴木理事長が挨拶



芦澤委員長の説明に耳を傾ける受講生



今年から始まった「復活自責点」の検索



研修会終了後、再確認する受講生も